

木霊と出会う散歩道

鎌倉



木霊

屋久島の写真で木霊（こだま）をご覧になったことはありますか？

屋久島へ行ってみたいと思いつつ、まだかないません。

ところが、鎌倉で木霊（こだま）に遭遇。

一つ目と二つ目があり、一つ目は目玉親父のような感じでした。

いずれも写真を掲載します。

では、一緒に鎌倉の散歩に出かけましょう。

大船駅から称名寺へ

この日は天気予報では午前までは小雨程度ですむような感じだったので、大急ぎで鎌倉へ行って来ました。結果はかなり早くから大雨となりました。



大船駅を出発します。

駅前の交番から鎌倉芸術館前を通り、鎌倉女子大横を抜けて砂押橋の交差点を川に沿って進みます。

さほど広くない道路はバスが通ると迫力を感じます。



約50分ほどで白山神社前に到着します。

このあたりで雨が本降りとなりました。

右手に見えるのは紫陽花。

6月には見事な花を咲かせます。紫陽花寺などと違って人が来ない穴場です。



静かな神社です。

雨の中、しばし静寂を味わいます。

お参りをして称名寺へ向かいます。



白山神社からは3分ほどで称名寺（今泉不動尊）へ到着します。
一番左のお地蔵さんのみ、顔に雨がしみているような感じです。
外国風の鼻が高いお地蔵さんです。



境内です。
手前に山茶花、奥は寒桜の一種でしょうか。
山茶花と桜のコラボレーションが味わいがあります。



お地蔵さん、すくすく育った水仙に囲まれてしまってます。
どこか、恥ずかしげな様子。



雨で滑る中、石段を登り不動堂にやってきました。
三猿が顔にかかった雨の滴を拭いているようにも見えます。



名づけて陰陽の石。

普段はふくよかな顔なのですが、新発見がありました。

雨に濡れて、エジプトの壁画にあるような、頭に戴冠した逆三角形の峻厳な顔が見えます。それも、シャガールの絵のように多重に見えます。



三十六童子です。

雨の中、いつものように整列されておりご苦労様です。

奥の大日如来像にご挨拶した後、滑る石段を慎重に降りて陰陽の滝へ向かいます。



石窟まで降りてきました。

雨は降り続けています。

まるが現れました。

まるは一般的にはオーブと呼ばれています。

[詳しくは「まる学事始め」をご参照ください。](#)



陰陽の滝です。

まるがいっぱい。

雨で水量の多くなった滝をバックに、どの写真にもまるが写ります。



ここ数回称名寺に来てもまるは写りませんでした。

まるが戻ってきたのかと思いました。

[「まる学事始め」では何回もここを記事にしています。](#)



わかりにくいのですが、右側に不動明王の石像があります。

あたり一帯にまるが舞います。



一歩下がって撮影した写真です。
左側が雌滝です。



帰りがけにもう一度石窟を撮影しました。
白い輝点が点々と写ります。



う～ん

これは、雨粒かな??

輝点の上部ははっきり写り下部がかすかにかすれています。

最初大光量で発光して時間とともに光量が減っていくストロボの発光特性からして、ストロボが発光した瞬間に濃く写り、光量が減少する間、雨粒も落下して下側に尾を引くのはうなずけるのですが、過去の経験から普通の雨であればもっと長く尾を引いた写真となります。つまり雨のスピードはそこそこあるということ。（この写真のシャッタースピードは1／30秒）

あまりにも丸い写真は、雨粒がよほどゆっくり落下したとしか考えられません。

大粒の雨が勢いよく降っていたのですが、、、。

雨粒と思うけど、どうも怪しい。まるかもしれません。

[「まる学事始め」にも記述しましたが、ここはいろいろ不思議な写真が撮れている場所です。](#)



そばのお墓です。
ものすごく雨が降っているのですが、まるは写りません。



帰りがけです。

あれっ、右から二人目のお地藏様、、、。
前掛けが顔にかかってしまってます。
来たときはそんなことなかったのに。
そんな強い風が吹いた記憶もないし、不思議です。

前かけを元に戻しました。



めでたく元に戻ったところで、全員でまたパチリです。

散在ヶ池で目玉親父に似たまると遭遇



称名寺をあとにして、散在ヶ池に向かいました。

川が雨に打たれているのがわかりますか？

かなり雨が降っています。



イワタバコがある崖のところで、まると雨の関係がとても気になり、1枚撮影しました。
まるだらけ。



もう一枚。
こちらは輝点で写っているので雨かも。
でも先ほどの石窟と同じで、みな丸く写っており、
普段なら写る雨粒の光跡が見えません。
まるでみんなフワフワ浮いているかのごとく。



散在ヶ池への登りです。

ここもまるがいっぱい。
まるの中を進んでいきます。



散在ヶ池です。
さすがに雨の中、誰もいません。



雨の中、湖はいつになく神秘的に見えます。



湖の左側を通って行きました。
湖に注ぐ滝があったなんて、初めて知りました。
雨が降ったから出現したのでしょうか。



誰もいない雨の小路です。
雨の影響が気になり撮影しました。
前はまるだらけ。



横も、まるだらけ。
本当はこれは雨粒ではないのかとの疑念がわきます。



後ろもまるだらけ。
完全にまるに囲まれてしまっています。

ん？

一つ目、、、

ドーナツが写っています。



拡大しました。

目玉親父？

まるの真ん中が抜けていて向こう側が見えます。

まるの新種です。

まるが雨粒や細かい水の粒子であった場合、

レンズの焦点距離手前のごく近距離にある物質がピンボケで写るとというのが原理。

しかし、ピンボケでもおぼろげにその形は写るはずだと思います。

地上では水は表面積を最小にする球になろうとします。

水がドーナツ型になる場合というのは、、、

外部から何かしないと、自然界ではこのようにはなりません。

やっぱり、まるなんだ、と考えるわけです。

[まるについては「まる学事始め」に詳しく書いています。](#)

珍しい写真も載っていますのでぜひご覧くださいませ。

百八やぐらで木霊と遭遇

散在ヶ池を後にして、雨がすごいで今泉の住宅街を抜けて、紫陽花寺へ出ようかなと思いましたが、
足は勝手に百八やぐらへ向かいました。



百八やぐらです。

[「まる学事始め」でも書いている場所です。](#)



当然と言えば当然ですが、こんな雨の中、百八やぐらには誰もいません。
天園ハイキングコースですら誰もいないのですから、理にかなっています。

雨の中のやぐら一人歩き。
静かでいいものです。



ポチ、ポチ、ポチ とまるが写ります。



同じやぐらの連続写真です。

前の写真にはまるが写っているのにその次の写真にはまるは写っていません。

写ったり写らなかったり。

[「まる学事始め」で紹介しているように、いつもと同じです。](#)



さて、そろそろ帰ろう。

帰りは、雨がすごいで天園ハイキングコースを行かずに
そのまま覚園寺方面へ降りて鎌倉宮経由で帰ることにしました。



途中切通しになっているところで写真を撮りました。
まるがいっぱい。



その先もまるがいっぱい。

写真左下に注目。



拡大しました。

今度は、、、二つ目。

屋久島の木霊が写っているみたい。

木霊が集団でいます。

鎌倉で出会えるなんて、、、、。



雨は降り続けています。



そろそろ民家が近づいてきました。
まるともお別れです。



ハート型というか、翼を背中から撮ったといったほうが良いでしょうか。



もう車道に出ます。
振り返り写真を撮りました。
ここまで、一緒に来て手を振られているような気持ちになりました。

沢山写っていたまる。
たぶん、木霊。あるいは、森の精霊たちです。
もののけ姫の中で木霊が出てきます。
みんな、私と一緒に動いていたような気がします。
私はまるに囲まれた中を歩いたのですが、
まるは、たぶん、道をあけてくれて一緒に散歩してくれたんだと思います。
でも、車道に出るとき、ここまでだによって、私を振り返らせてくれたような気がします。

人間は文明の名のもととは嘘ばかりのお題目で、
森林のオーナーが金持ちになるために自然の破壊を続けています。

鎌倉にだって、屋久島と同じ木霊がいるのです。
たぶん、全国どこにでも。

気を許してくれたときだけ、人間にわかりやすいように、目のようなものを見せてくれるような
気がします。

共存している隣人たちです。

雨の日に林の中の小路を一人歩いてみましょう。

科学ではいまだに予知できない、ずっと昔からいる隣人たちの存在が懐かしい気持ちとともに甦ります。

[まるについて詳しいことは「まる学事始め」をご覧くださいませ。](#)

珍しい写真が沢山載っています。

鎌倉宮から鎌倉駅へ

車道に出た後は鎌倉宮へ向かいました。



鎌倉宮です。
人の世界に戻った気分です。



荏柄天神です。

銀杏は夏の暑さのせいか、葉が褐色に変わってしまってます。

遠くから見ただけで通り過ぎです。

真ん中の大きい丸、これは水滴がレンズにつきました。



頼朝のお墓の前の白旗神社です。

いつもレモン色に紅葉する銀杏ですが、ここも褐色になってしまってます。



頼朝のお墓です。

雨が降るベストコンディションなのにまるは写りません。
何回来ても、ここではまるは写りません。
雨はかなり降っています。



鶴岡八幡宮です。
雨でも、ここは人がいっぱい。



大銀杏です。

頑張れ大銀杏と書かれていました。



人力車は人を呼び込みますが、なんせ雨。



鎌倉駅到着です。

結構濡れてしまいました。

3時間半、10Kmの散歩でした。観光客がほとんどいない、鎌倉の裏の散歩道です。歩けば歩くほど、いろんなものに出会える散歩道です。

「まる学事始め」が充実していくことを期待しています。

不思議な写真が載っていますので覗いてみてくださいませ。

木霊と出会う散歩道 鎌倉

<http://p.booklog.jp/book/39523>

著者：絵夢ロイ

著者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/mroy20100814/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/39523>

ブックログのパブー本棚へ入れる

<http://booklog.jp/puboo/book/39523>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパブー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社：株式会社paperboy&co.